

令和4年度 教育に関する事務の点検・評価報告書について

1. 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正(平成19年法律第97号 平成20年4月1日施行)に基づき、教育委員会が自らの権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行い、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、区民の視点に立った客観性や透明性の高い教育行政の推進を図ることを目的とする。

2 「豊島区教育に関する事務の点検・評価委員会」の設置

外部の知見を活用して、教育委員会事務局が行う教育活動の執行状況を検証するために、教育に関する識見を有する以下の外部委員3名で構成される「豊島区教育に関する事務の点検・評価委員会」を設置した。

職	氏名	区分	略歴
委員長	美谷島 正義	学校経営経験者	東洋大学非常勤講師 元東京女子体育大学・東京女子体育短期大学教授
副委員長	福本 みちよ	学識経験者	東京学芸大学大学院 教育学研究科教授
委員	大野 春美	区民	富士見台放課後子ども教室 地域コーディネーター 元豊島区立富士見台小学校 PTA会長

3. 委員会開催状況

回数	開催日	審議内容	場所
第1回	令和4年11月22日(火)	○ 令和3年度点検・評価項目に対する取組み状況報告 ○ 評価対象事業について ○ 外部評価審議	教育委員会室
第2回	令和4年11月30日(水)	○ 学校・施設視察 ○ 外部評価審議	池袋第一小学校
第3回	令和4年12月19日(月)	○ 外部評価審議	教育委員会室
第4回	令和5年2月1日(水)	○ 外部評価まとめ	教育委員会室

4. 点検・評価対象

「豊島区教育ビジョン 2019」の進行管理にあたり、各施策をPDCAサイクルによって改善につなげていくという観点から、これまで評価対象となっていなかった事業・取組みの中から選定するとともに、現行教育ビジョンの改定時には課題となっていなかった今日的な事業・取組みについても点検・評価を実施した。

【点検・評価対象】

- ① オリンピック・パラリンピックの機会を活かした教育の推進
- ② 学校施設環境改善交付金対象事業
- ③ 放課後事業の充実
- ④ コロナ禍における学校生活について
- ⑤ 特別支援教育(インクルーシブ教育の推進)

5. 点検・評価の視点等

以下の視点を踏まえて、効率性・有効性について点検・評価した。

- ① 施策を構成する各事業が効率的に執行されているか。
 - ・適正な経費で、最大の効果を上げることができたか
 - ・効率的な手法・手段となっていたか
 - ・計画に即して円滑に事業を執行できたか
- ② 事業構成は施策の目的に照らし合わせて必要かつ十分であるか。
 - ・目的の妥当性、区民等のニーズはあるか
 - ・時代の要請に適切した事業内容となっていたか
 - ・対象とする範囲は適正であったか
- ③ 事業内容は施策に対し、有効に働いているか。
 - ・目標とする効果・成果をあげることができたか
 - ・児童生徒の教育上、真に有効な取り組みであったか
 - ・活動指標、成果指標の目指す方向性に即した取り組みであったか

【効率性の評価】

- A 高い…実施手法は適切で、見直しの必要はない
- B 適正…実施手法は概ね適切である
- C 低い…見直しが必要である

【有効性の評価】

- A 高い…区民等のニーズが高く継続すべき事業であり、十分な成果を挙げている
- B 適正…一定のニーズがあるとともに継続が求められており、成果を挙げている
- C 低い…区民等のニーズや社会変化に適切しておらず、見直しが必要である

6. 評価結果について

事業名称	効率性	有効性
オリンピック・パラリンピックの機会を活かした教育の推進	B	B
学校施設環境改善交付金対象事業	A	A
放課後事業の充実	A	B
コロナ禍における学校生活について	A	B
特別支援教育(インクルーシブ教育の推進)	B	B

事業名称：オリンピック・パラリンピックの機会を活かした教育の推進

	評価	判断理由
効率性	B	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本事業は、2020 東京オリンピック・パラリンピックに関わる東京都教育委員会の推進するオリンピック・パラリンピック教育を本区でこの機会を活用して、この教育のレガシーを児童生徒に涵養するねらいがある。育成すべき5つの資質のうち、本区では「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際理解」の3つを重視し、アワード校を指定し、取り組み、その成果を他校にモデル案として提示していることは評価に値する。 ○ SDG's 達成の担い手事業と関連づけながら事業展開したことで、予算も有効に活用できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アワード校の成果を分析し、他校にどう活かすかが課題と言える。 ○ 事業を展開するにあたり、学校の意見をどの程度聴取したかを把握したい。平成28年度「夢プロジェクト」による出前事業等では、子ども達はワクワクしながら様々な学びを得ることかできた。コロナ禍での東京オリンピック、パラリンピックが終了した今、教育現場ではオリパラ教育というよりも、より安全な教育環境づくりに取り組む 学校に与えられる国際認証である ISS (インターナショナルセーフスクール)や SDG's 達成の担い手事業等に力を入れているように感じる。
有効性	B	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京都全体でのオリパラ教育の推進という施策方針にもとづき、本区では特にカリキュラム・マネジメントの観点を重視して事業展開したことで、各校におけるカリキュラム・マネジメント意識の醸成につながった点は非常に評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍の中での2020 東京オリンピック・パラリンピックであり、十分な児童生徒の体験的な学習ができたかという点については疑問が残る。教育課程届にこの取組を位置づけることにより、この取組の評価ができ、今後の教育活動に良い影響をもたせることを期待するとともに、各校のカリキュラム・マネジメントの推進にこの取組が活きることを期待する。 ○ 東京都全体でのオリンピック・パラリンピック教育の推進という施策方針の下、本事業が平成28年度より開始されていることから、事業の継続性が生み出す成果は大きい。しかしながら、すでにオリンピック・パラリンピックの終了後であり、開催形態の変更から本区の児童生徒の観戦が叶わなかった等の実態がある以上、「学校2020レガシー」の設定等を学校に求めることは有効であったのか。事業分析シートに記載されている「オリパラのレガシーをどのような形で学校に残していくのか、教職員が具体的イメージを持ってない」という実態は当然のことであろう。「オリンピック・パラリンピックの

		<p>機会を生かす」という視点から脱却し、これまでの実践の成果をいかに次の段階につなげていくかを強調した事業展開が必要だったのではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 可能な限り、事業の見直しを推進し、先生方が子ども達一人一人に温かな励ましの言葉をかけられる様に、心の余裕と時間を持てる様に、配慮して頂けることを期待する。
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業名称：学校施設環境改善交付金対象事業

	評価	判断理由
効率性	A	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校施設の老朽化対応ばかりでなく、今後の学校教育施設の在り方を追求し、限られた予算の中で実現している点は、評価できる。児童の視点に立ち、使いやすさ、教育環境の整備など模範となる施設と考える。 ○ 時代の要請を的確に把握し、防災機能の強化と教育環境の整備が一体化した機能的な計画となっている。 ○ 防災機能の強化は、先見のかつ継続的に行われることが不可欠である。学校の個別ニーズにしっかりと耳を傾けながら、区全体の教育環境の整備計画を立案していくという現在の区の姿勢を、今後も継続していただきたい。 ○ 今後、ますます大事な防災拠点となる学校施設の計画的な改築・改修工事の実施は必要である。また、教育環境の充実は、魅力ある学校づくりにつながる。各学校の改修要望調査の実施は、「子ども達にできるだけ平等に！」との思いが感じられ、評価できる。 ○ 視察校では、「地域に開かれた学校づくり」と「教育の質的な向上につながる」大きなチャンスになると感動した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も、それぞれの学校の改修要望を的確に受け止め、教育施設の環境整備に推進してほしい。 ○ 今回の視察では、防災面の状況が把握しづらかった。
有効性	A	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報センター(図書室)の教育的効果は高いと考える。十分な活用を期待したい。また、準備室等施設そのものに柔軟性がある点は評価できる。 ○ 木密地域という学校の地域性をふまえ、学校と地域が一体となって防災機能の強化に向けて取り組む態勢づくりができている点は、大いに評価すべき点である。 ○ 今回視察させていただいた池袋第一小学校の改築は、時代の変化をふまえた教育環境の整備が教育活動の質的向上に直結することを示す良い事例になると言えよう。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災機能についても区民等のニーズは高い。この点についても、本校の防災機能について区民に十分啓発することを期待したい。 ○ 本事業で生み出された成果（教育環境の整備による教育活動の質的向上）を広く発信することで、より本事業の有効性が高まると考える。「改築完成＝事業終了」とせず、その後明らかになっていく本事業の成果の活用を含めた事業展開に期待したい。 ○ 防災機能の強化と、防災備品等の更なる充実を期待する。

事業名称：放課後事業の充実

	評価	判断理由
<p>効率性</p>	<p>A</p>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他区等では、この事業は福祉で所管していることも多い。児童の目線で言えば、教育も福祉も境はない。この意味で、学校と放課後対策課が教育委員会内で連携をとりあい、子どもたち一人一人の健全育成を図ろうとするこの取組は評価できるし実践的な成果を期待したい。 ○ 本事業が教育委員会に移管され、学校との連携が強化されたことは、本事業の目的達成に向けて大いに効果を発揮している。 ○ コロナ感染防止対策について、国や都の補助金を活用しながら適切な対応がとられている。 ○ 宅配弁当の提供等、保護者の負担軽減にも可能な限りの配慮がなされている。 ○ 大反対の中、平成16年にスタートした子どもスキップ運営事業であるが、今や、子ども達が安全・安心に活動ができる、なくてはならない居場所となっていることは評価に値する。子ども達の健やかな成長と幸福のために、是非継続していただきたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校と子どもスキップの指導者との望ましい連携を期待したい。 ○ 事故の発生について、「低学年・校庭・自由遊び」という共通点はここ数年変化していない。難しいことではあるが、対応策の検討を続けていただきたい。
<p>有効性</p>	<p>B</p>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後の子どもの活動の充実のニーズは、社会の動向に伴い増加することは間違いない。学校教育の中では、生活指導に関わることをソフト面では充実し、ハード面ではこの事業啓発を様々な手立てで展開していくことが重要である。 ○ 区内在住の全児童を対象に「安心・安全な放課後の居場所の確保、成長の支援」を事業目的に掲げている点は、大きな意味を持つ。単なる「活動場所の提供」ではなく、子ども達の成長を支援するという意義をもった事業となっている。 ○ 本事業の展開にあたっては地域の協力も不可欠であり、そうした方々の意見聴取や連携を深めるための手段が確保されている点は、評価に値する。今後も、地域の方々の声に耳を傾ける姿勢を維持していただきたい。 ○ 子どもがありのままにいられる居場所でもあり、「放課後子ども教室」では、申し込んだ子ども達が、とても楽しそうに参加しており評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもスキップ運営会議の役割を明確にするとともに、開催回数や協議事項を整理する必要性を感じている。地域子ども懇談会の内容を運営会議にどう

		<p>活かすかも期待したい。安全指導の継続的な取組もお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 書籍や遊び道具の更新は経費面から容易ではないが、区立図書館との連携等を含め改善策の検討を続けていただきたい。○ コロナ禍の影響で、ケガが増えているので、この対策を充実する必要がある。
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業名称：コロナ禍にける学校生活について

	評価	判断理由
効率性	A	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ハード面として補助金等を適切に活用し、学校教育活動での新型コロナウイルス感染症防止対策を行った。マスクをはずさず演奏できるキーボードの購入等の工夫も独自にされている。 ○ ソフト面として児童生徒の心のケアの充実、ICT 機器の積極的活用などに取り組んでいる。 ○ 「教室等の環境整備」については、配布予算として学校が使いやすい形で実施されている。 ○ 全児童生徒へのタブレット PC 配布（令和2年度）、各教科等におけるタブレット PC の効果的活用（令和3年度）というこれまでの施策展開の流れを受けて、令和4年度はタブレット PC を有効活用した授業改善とそのため教員向けミニ研修を事業内容とした展開は妥当である。 ○ 感染症対策に必要な用品の確保等で、教育現場における環境が整備されることは評価できる。GIGA スクール構想の取組は子ども達の学びの保障がされており、評価できる。このようにコロナ禍を経験することにより、子ども達も想定外を生きる力をつけていると実感している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も各学校のニーズを適切に把握し、ハード・ソフトの両面からの支援を期待したい。 ○ コロナ禍における児童生徒の心のケアについて、2学年（小5、中1）を対象に SC による全員面接という手法によって極力取りこぼしをなくす試みがなされた。この手法は、おそらく賛否両論の考え方があると思われるので、その妥当性について、可能であれば検証していただきたい（教員の声等の聴取等）。
有効性	B	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育活動での新型コロナウイルス感染症防止については、一定の成果をあげている。 ○ ICT 機器の活用に関する情報提供や研修等工夫がみられる。 ○ 学校の困り感に寄り添う姿勢が施策全体にわたって貫かれている点は評価したい。 ○ 心の健康アンケートの実施は、不安やストレス、悩みを抱えている子ども達に寄り添い、励ましを送っていただけのために、非常に有効と考える。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も感染状況の把握に努めるとともに、緊急性を要する対応については、独自の適時な予算確保を期待する。 ○ ICT 機器活用の教科指導と生徒指導場面の両面にわたるシステムづくりの整備について今後期待したい。

		<ul style="list-style-type: none">○ コロナ禍における学習支援や授業改善について、PC の効果的活用に重点を置き過ぎているのではないか。コロナ禍は、改めて学校運営の在り方を見直す絶好のチャンスである。その点についての、行政からの支援やアドバイス等を展開するという手法も有効であったのではないか。この点を今後の施策で検討し活かしていただきたい。○ 心の健康アンケートの実施の取組の中で、時間がかかるかもしれないが、ヤングケアラーの存在に気づき、対処していただきたいと感じる。
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

特別支援教育（インクルーシブ教育の推進）

	評価	判断理由
効率性	B	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践的研究事業モデル校を設置し、その成果を他校に活用する取組は適切と言える。 ○ 学校からの相談申請は年々増加しており、学校現場の状況は厳しさを増している。そうした状況を的確に分析・把握し、豊島区固有の「特別支援学級指導員」「学級運営補助員」の配置など積極的な支援策が展開されている。また、全ての児童生徒が楽しく、分かりやすく学べるよう授業のUD(ユニバーサルデザイン)化の推進に向けて、教育委員会としての支援も展開されている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中の校種の違い、地域の実態把握を十分に行い、実践的研究事業モデル校の成果を学校ごとに指導助言していくことを期待する。 ○ 学校等の十分な連携に基づく就学相談システムの整備充実を期待する。 ○ 支援人材の確保について打開策をより具体的に検討し、見える化していく必要があると考える。
有効性	B	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共生社会を実現させるため、障害についての理解を深めるインクルーシブ教育の推進は、子ども達にとって価値ある事業と考える。 ○ 区独自の推進計画の策定は評価できるとともに、継続的調査を実施し、区民のニーズ把握に努めている。 ○ 当該保護者や学校からの支援の要望は強く、それに応えるべく事業を展開する努力がなされている。財政的人材的に厳しい事業はあるが、必要性は高い事業である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級指導員、学級運営補助員の増員配置を期待したい。 ○ 一方で、担任の先生をサポートするため、特別支援学級指導員や学級運営補助員の配置が、教員の負担大とならぬように留意していただきたい。 ○ 実践的研究事業のモデル校での実践研究について、教育委員会としてより積極的な支援が必要ではないか。全国における同様の実践研究は数多くなされており、また学会等での事例報告も蓄積されている。それらをふまえた上で、一步先を見た研究成果を区内の学校に提供できるよう、善処を強く臨む。 ○ モデル校以外のUD化に対する意識化をどのように図っていくのか、教職員への研修などより具体的な方策の検討が必要と考える。